

岳北地域高校の魅力づくり研究協議会 第2回農林高校部会（会議録概要）

- 1 開催日時 令和2年9月28日（月）午後14時00分～15時37分
- 2 場 所 木島平村役場2階 第1・2会議室
- 3 出席者  
部会長 木島平村長 日碁 正博  
副部会長 栄村長 宮川幹雄  
木島平村教育長 小林 弘  
栄村教育長 石澤 清人  
下高井農林高校同窓会長 村松 剛志  
中野・下高井中学校長会 木島平中学校長 伊賀 雅志  
中高PTA連合会 木島平中学校PTA会長 竹内 芳次郎  
下高井農林高校PTA会長 上埜 暁子  
信州いいやま観光局常務理事 石田 一彦  
飯水岳北建設労働組合長 真篠 剛  
北信州森林組合利用事業室長 滝沢 良一  
特別養護老人ホーム里山の家木島平施設長 大日向 久美  
木島平村農業振興公社事務局長 竹原 雄一  
オブザーバー 下高井農林高等学校長 久根 敏  
オブザーバー 長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室 上原 一善  
事務局 木島平村教育委員会子育て支援課長 島崎 かおり  
木島平村教育委員会子育て支援係長 武田 幸一

4 開 会

5 あいさつ（部会長、副部会長）

日碁部会長

皆さんこんにちは。それぞれお忙しい中、第2回目の農林高校部会という事でお集りいただきまして大変ありがとうございます。特に大手の農家の皆さんにとっては本当に最盛期という事で高橋さん、小池さんについては雲の合間を見ながら稲刈りされていると思いますが、お忙しいなかお集まりいただきましてありがとうございます。前回につきましては、それぞれの皆さんから下高井農林高校に対する期待、主にそのような点でいろいろご意見伺いましたが、今回はそれに対して今後、それぞれ皆さん方が下高井農林高校の魅力を高めるために何ができるか、仕事を通して個人的に自分の経験を活かして、こうゆう事ができるという様な事を中心に話ができればいいかなと思います。全体の協議会のスケジュールがありますので、なかなか日程調整が難しい部分もありますが、これからも会議を継続しながら下高井農林高校の魅力向上のために尽くしていきたいと思います。それから今日は、先週下高井農林高校の生徒の皆さんから大変素晴らしい提案をいただきました。これらについても是非ご覧いただいて、高校生自身が地域のために役立ちたい、そうゆう

思いが本当に伝わってくる提案をいただきましたので、今日資料として付けましたので、後ほど説明させていただきますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、今日よろしくお願ひいたします。

#### 宮川副部会長

皆さんこんにちは。この5月15日に、栄村の村長として就任いたしました宮川幹雄でございます。どうかよろしくお願ひをいたします。私は、昭和47年に下高井農林高校の林業科を卒業させていただきました。下高井農林、我が母校でございます。先ほど玄関付近をひと回りさせていただいてきました。昔の計見山の実習とかいろいろ思い出されました。そういった中で、高校再編については、子ども達の数が少なくなってきたという中で話で難しい事だと思ひますが、でも私は母校とかそういう事だけでなく、国際的な政治の不安定さとか食糧自給とか、地球の異変の関係でいろいろな災害が起こるとかまた、これから先どうなっていくかよくわからないコロナの問題だとか、ウィズコロナ、アフターコロナとか言われているような中で、東京一極から分散化だとかいろいろなこと言われる中で、正に下高井農林高校はこれから必要になる学校だと私は思っています。ただ数が少なくなってきたから、そうではないだろう。私ども長野県が一番北にいますので、新潟県との関係も非常に濃くありまして、隣の津南中等教育学校というのが平成18年にできたわけですが、そこへも毎年1人、2人づつ行っておりまして、いろいろ新潟県の方にもお世話になっているところです。そこもこの6月に新潟県のほうの再編の問題が出ております。また、松之山温泉というのがありますが、あそこにも松之山分校というのがあります。そこは子ども達が、今70人位いるのかな、勉強しているのですがそこも今度、募集停止というようなことが出されています。そのPTAの皆さん、学校ではずっと、まだ分校なんだけど独立運動をやっています。その学校継続して独立してやっていく、分校でなくてやっていく、その運動もしています。津南中等、その声が挙げた時にすぐ県教委に直訴ですね、かなりそうやって活動をしてというようなことで、その時に募集停止という案が出たんですが、津南高校の場合は、白紙に戻して取り組むことになったそうですが、まだまだ、定員が満たないというような状況が続いている中で、この先どうなっていくかわからない、というようなことでかなり津南町あげて運動を展開しているところがございます。長野県においては、状況が違うので何とも言えないところもありますが、魅力ある学校をつくっていくという事ですので、魅力とは何かというと子ども達にこの学校に来てもらわないとだめだという事だと思ひます。そして、いろいろなことありますが、長野県として長野県教委としてもこの魅力ある学校づくりに何ができるのか、一生懸命その辺についても我々としてお願ひすべきところはお願ひする。言うべきことは言うという形をこの協議会で作っていくことが大事だろうと思ひています。いろいろな事があると思ひますが、ぜひ皆さん方と一体となって、この協議会でいい方向を出して行けるように私も一生懸命みなさんとやっていきたいと思ひていますので、どうかよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

## 6 議事会議事項

#### 日墓部会長

はい、では私の方で進行させていただきます。最初に事務局から、第1回目の部会を出

された意見等踏まえて、ということで報告を兼ねてお願いをいたします。

(事務局が、資料1により第1回農林高校部会で出された意見等について説明した。)

(事務局が、資料2により農林高校生が提案する地域活性化プロジェクトについて説明した。)

日碁部会長

前回の内容として、またそれに合わせて基本的な考え方等事務局から説明しましたが、この点について皆さんのほうから何かご意見ご質問、追加のご意見等ありましたらお願いいたします。ありましたら、またそれぞれの意見の中で出していただければと思います。皆さんそれぞれ下高井農林高校を地域の教育機関としてただ残すだけでなく、発展させていく必要があるという事が出されたわけですが、それに対して皆さんのほうから例えばこうゆう事ができる、こうゆう事やってみたいとかそうゆうものがあれば是非発表していただければと思います。いま資料を見て、話がありましたが下高井農林高校のこのプロジェクトですね、大変素晴らしい内容だと。何点かありますが、特に高校生の皆さんがSDGsに関心をもって、環境問題と共にこの地域の活性化をしていきたいという発想、それから高校は3年間しかないにもかかわらず、10年後の目標を掲げていると。つまり、高校生の皆さんは自分たちの事だけで終わらせない、それをこの後もずっと後輩に受け継いでもらい、引き継いでいくと。そうゆう意味での発表であったわけです。村としては本当にありがたい。是非成功させたいと思っておりますが、それに対して高校生だけではできない部分、資金面であるとか人材であるとか、それについては村でも最大限協力をしていきたいと、協力というか一緒にやっていきたいと考えております。また皆さんの方でも関わっていただくこともあるかと思っておりますので、この内容はこのままでできるかどうかという話ではなくて、こうゆう取り組みも更に続けていく、広げていく。そのことで更には情報発信を広がっていくと、そして多くの皆さんに関わってもう事によって、下高井農林高校の魅力を知っていただく事につながっていくのかなと思っておりますので、この点についてのご意見でもいいかと思っております。前回、下高井農林高校の校長先生から「いま、下高井農林高校をどうゆうふうにしていくかという様なことで提案というか、今の考え方を発表していただきましたが、その中でも地域とのかかわり、地域と下高井農林高校の生徒がどうゆうふうに関わっていくか、その中で地域を知ると。知って課題をみつけてその課題に対してどうゆうふうに取り組むのか、地域と下高井農林高校が大きく関わってくるそうゆう視点で下高井農林高校の魅力を高めていく。そうゆう様な発表がありましたので、やはり高校だけの問題でなくて地域がそれをどうゆうふうを受け入れていくか、どうゆうふうに関わっていくかということが大きなこれからの課題だと思っておりますので、先ほど申し上げましたとおり、どんな事でもいいです。受け入れできるとか、こうゆう技術指導ができるとか個人的な事でも、仕事上の事でもいいですが、皆さんの方から意見を出してもらえればと思いますが、いかがでしょうか。どなたでも。誰か最初に口火を切っていただければ後つながりますので、是非最初の方お願いします。

信州いいやま観光局 石田常務理事

信州いいやま観光振興局の常務理事、石田と申します。前回も参加させていただいて、前回は学校存続のための魅力とはという事で、先ほど栄村の村長さんがおっしゃったとおり、魅力とは何かという部分で学校存続のための魅力づくりという事で、入学前の生徒さ

ん、保護者の皆さんに訴求力のあがる取り組みという事で、前回の中で例えば卒業後の大学との連携、地域との連携を意見として申し上げをさせていただきました。今回、わたくし観光担当という事でございますので、若干周囲の状況を申し上げますと、今飯山駅を中心に飯山市さんの呼びかけですが、信越自然郷という取り組み、広域観光の取り組みをさせていただきます。この9市町村、飯山駅中心に半径20キロということですが、・・・コンパスの軸を農林高校に置き換えても、この9市町村基本的に変わりないと思います。エリア人口がだいたい今134,000人、それに比べて観光客がこのエリアでいうとだいたい年間に1,200万人、宿泊者の延べ数ですがこれは県の統計ですが800万人ということで、非常に大きな観光エリアがこの地区にございます。前回、学校存続のためにと申し上げましたが、農林高校の授業ですとかそうした中で魅力づくりという事であれば、こうした事が大きな受け皿にもなり、あるいは農林高校の授業の発表の場にもなりますので、カリキュラムづくりの中でご協力させていただくものがあれば、観光分野として農林高校の活動の中に取り入れていただいたり、一緒に連携させていただいたりできればいいと考えております。

#### 日臺部会長

ありがとうございます。先ほど資料見て申し上げた、これはたまたま馬曲温泉ですが、高校生の皆さんは将来的には広域的なものにつなげていきたいと。できれば、高校生が自分でお客さんに案内したいと。ゆう事ですが、その案内するだけの知識があるかという、その辺の過程までです。それについて、例えば可能かどうか別にして、地域の皆さんが高校へ行って地域の魅力について伝える。そんな場面があるといいのかなと思います。それともう一点つい最近の新聞で、全国の専門高校について民間からの副校長を入れるそんな様な取り組みをするというニュースが出ていましたので、いま村でもそば打ちの皆さんが高校入ってそばの指導をしています、地域の皆さんが農林高校に入って観光であったり、農業であったり、食品加工であったりいろいろ面で指導する、そういう様な事ができるのか。それとさっきの副校長の件、全国で40か所くらいモデル事業の話がありました。それについての、校長先生、学校の状況はどうですか。

#### 下高井農林高校 久根校長

こんにちは、本日お忙しい中ありがとうございます。いま村長さんのお話の中で後段の副校長について、私も資料で見たくらいでありまして、まだこれからの話なのかなと思いますが、地域の方が授業で・・・指導していただくとか、実習の中でもこっちから出向いてというのももちろんありますし、お越しいただいてというのも少しやっておりますが、これからも大きく広げていく、地域の方のお力を借りなければできないもの、カリキュラムの中にありますのでお願いしたいところであると思います。そういったときに、行政からの方もいらっしゃるし、民間の方もいらっしゃると思いますが、どんな形で応援していただくとか、そういう様な形で入っていただくかというところの部分。財政的な部分ももしかしたら必要になってくると思いますが、その辺りのところは考えていただければいけないなと思います。

#### 日臺部会長

それぞれ、例えば自分の得意な分野で定期的に、週1回とか、月1回とか時間を設けてもらってそのところへ行って自分の得意な分野を地域にかかわるものであるとか、地域の

課題であるとかそういうものを高校生の皆さんに知ってもらい、そういうものをカリキュラムの中に・・・学校のカリキュラムに入るのか。それとも別枠でやるのかその辺はわかりませんが、そういう事のできるってことでいいんですよね。その他、皆さんの方でどうでしょうか。あと副校長の話を。

下高井農林高校 久根校長

前回の資料で学校に・・・むけて考えている1枚ものカラー刷りの中の1年次、先ほど村長さんの方も地域で自分を知る、地域を知るその中で課題を見つけていく、それを取組む。そういう一連の流れの特に1年次の・・・産業社会の人間、農業と産業という事であるんですが、その中で具体的に地域産業の現状であったり、最新の部分、農業分野を含めて地域を知るという意味での地域の歴史であったり、馬曲温泉の話であれば地域、壮大な構想ではありますが、生徒が最終的には案内を少しできる形に整えば、その辺の知識なければいけません、もそういったところをご指導いただきたいと。地域の方も力を・・・授業の中で・・・と思います。

日臺部会長

そういう事なので、是非学校へ行ってこうゆう事を教えてみたい、という話がありましたら。真篠さんどうですか。こうゆう事やってみたくとか。

飯水岳北建設労働組合 真篠組合長

今、飯水岳北労働組合ですが、組合さんが520名ほどおりますが、そのうちの60代～70代の方が40%、先がもう見えているんですよね。それを何とかしなければならぬと真剣にがんばっていますが、この間も9月の10日、11日と学校へお伺いしてまず10日には、下高井農林へ行って相談しましたが、是非、地元に残って地元の業者あるいはそういう仕事関係についてもらえれば非常にありがたいという事で伺ったのですが、その時に生徒指導の中村先生の話ですと確か14、15人来年の春ですね。地元に残ってそれぞれの企業へ就職してくれる様な話も聞いておりますが、いずれにしても少ないです。その次の日には、立志館に行って来ましたが、立志館の生徒はほとんどこちらからでなくて、中野、須坂、長野の生徒が多くてなかなか地元へというわけにはいかないという話を聞きました。飯山高校にも相談に行きましたが、ほとんど99%が進学という事で、いろいろな話を聞きますが親が真剣になって稼いだお金で子どもを4大とか出すのはいいのですが、その他に学資でお金を借りてそれぞれ学校へ出る形態になっています。その人が、大人になって男の人も女の人も学資保険借りた時に返さなければならぬですね。その場合に、負担になるから最終的に、なかなか子どもさんも結婚した時に子どもさんをつくっても将来どうなるかと子どもはなるべくつくらないとか、そういう事もありますので少子化の原因になるのではないかと。その辺もある程度、行政の中で支援するとかしてもらえれば、いいと思います。こうゆう問題出たという事は、一番は少子化です。子どもさんいっぱいあればこうゆう状態にはならない訳で、なかなか面倒な話ですが。同窓会長とわたし同じなんです。昭和44年農林高校卒業ですが、そのころの2年先輩の人が農業クラブに入っていて、農業クラブ長やってた人ですが今、村に残って加工会社をやっています。成功しております。そういう人もいますので、生徒さんがそういう場所へ行って実際にこうゆうふうに行っていますよとか、利益の問題とか、野沢農産の高橋さんが言われたように、このままやって儲かるような仕事だったらやると思うんです。そういうこともありますので、地元でやって

いる人の協力もあれば非常にお互いに行き来して色々な情報交換するとか、非常に大事ではないかと思っております。あと、実際にお金をかけないでやる方法というか自然の物を利用して、生涯上の話になりますが、わたし10何年も前から柿渋を作っています。そういう研究も農林高校へいった時、中村先生が柿渋の作り方を教えてほしいという話もあったので、色々な中で研究しながら地元でできるような、中にはそれを興味持ってやる人もいます。そうすると、話がつながりますが今、上埜さん、和紙をやっておられますね。利用方法はいろいろあるんです。和紙に隠し棒を塗ると表面が固くなる。いろいろな用途が出てくるんですね。殺菌作用もありますしね。いろいろアイデアが皆さん考えればあると思うんですね。是非出し合って魅力ある、生徒がこういう事を学びたいという、生徒からも要望聞いたり、親御さんからどうゆうふうにやってもらいたいとかしつかり聞いて、前へ進んだ方がいいと思います。

#### 日墓部会長

いずれにしても、全ての皆さんが何だかんだの形で下高井農林高校へ入っていくというか関わっていく、そういう取り組みも来年以降もできたら、繋げていきたい、続けていきたいと思っております。当然、生徒側の要望もあると思っておりますので、こういう人がいないとか、こういう技術を身に付けたいけど何とかならないとか。そういう要望を学校の方でまとめてもらう。村の方でも、地域の方では今ある技術というものがある。ああゆうものがある。こういうものなら教えることできるし、いろいろ関わってくることができるというのをお互いまとめていって来年以降、4月以降何らかの形で具体的な取り組みができればと思っております。介護はどうですか。介護も人手不足と聞いておりますし。

#### 特別養護老人ホーム里山の家木島平 大日向施設長

里山の家木島平の大日向です。今、お話ありましたように、介護職場に関しても人材不足という所はありますので、実際高校生の方は介護ってどんな仕事なの？どんなことするのかという事自体が知らないお子さん多いかと思うので、そういった意味でもこんなお仕事があるんだよっていう所で知ってもらえる機会がありつつ、少しでも介護に対しても興味もっていただければいいのかなとは思っています。そんな所で、さっそく明日、農林高校さんの方へおじゃまさせていただいて、毎年やらせていただいているのですが、木島平村社協さんと一緒に高齢者の疑似体験だったりとか、車イスの乗車体験、操作方法だったりという所をやらせてもらいながら、介護って大変だけどこんな楽しいこともあるよ。なんてことも一緒に伝えられればいいと思って毎年行かせていただいております。

#### 日墓部会長

実際の介護の場面は、なかなか私らも知らない様な部分もあるんで、その辺も是非高校生に体験してもらおうとか、現場見て一緒に体験してもらおうのが一番わかりやすいのかなと思います。あと、食事とかも当然関わってくる話なので、介護食とはどうゆうものかという高校の時にちょっと勉強しておくとか。そういう必要もあるかなというふうに思います。地域の様々な職業だったり、取り組みに対して高校生がいかに関心を持ってくれるか、そして将来それが自分の生業にしてもらえれば、一番いい事になるだろうと思います。森林組合どうですか。いろいろ体験をやっているかも知れませんが。

#### 北信州森林組合 滝沢利用事業室長

私も3~4年前に担当してもらったんですが、農林高校のまえでの熊のチェーンソーアート、高性能林業機械の現地の研修とかいろいろやらせていただいて、それについては学校入ってからの話なので、農林高校の魅力をアピールするのは小学生、中学生がターゲットだと思っています。あと、親御さん。私も農林高校を昭和54年卒業の時に、農林高校というのはここで言っているのか悪いのか、農林高校という名前がね、大変いろいろな事があるような学校の名前なんです。その時に、私もそうですが入学させてもらって私も、親父もそうですが林業1本できたんで私は、林業科に入って林業やるという事で今まで勤めさせてもらってますが、その中でやはり小中学生をターゲットにして農林高校へ行けばこうゆうふうになって、こうなるんだよと、そのぐらいのことで農林高校へ来てもらうのが、私は一番手取り早いという言い方なんです、やはり小中学生から農林高校へ行って、経験を少しずつでもこうゆう事やっているんだよ、ってことをPRしていくのが一番いいのかなと思っています。

#### 日置部会長

まずは、下高井農林高校と周辺の地域の中学生が交流するというか、一緒に活動してみるとか、そうゆう事が必要かなと思っています。そんな取り組みを、是非さっき話をした地域の皆さんが高校へ入っていろいろな技術を教えたりする。その時に、そこに中学生と一緒にいるとか、体験までは難しいにしてもそうゆう場面もあってもいいのではないかなと思っています。この点について、また後で小中学校を預かっている教育委員会の考え方を聞かないといけないかなと思います。あと、皆さんどうでしょう。上埜さん、竹内君。

#### 下高井農林高校 上埜PTA会長

私、農林高校のPTA会長という事でこの会に呼んでいただいたので、保護者という立場でお話させていただければと思いますが、保護者という立場で木島平で小中学校過ごさせていただいて、いろいろな幅広い経験をさせていただいてよかったですと思いますが、やっぱり中学生3年生くらいになると、すごく偏差値とか学力とかそういったことで進路相談、縦割りや割振られていく感覚がすごくあって、上を目指さるお子さんお持ちの親御さん、もちろん高い学力、勉強、そういった能力を伸ばせる学校を目指すのは当然だと思いますが、やはりそうでない子どもといいますか、なかなか学力でみられるとちょっと困難を抱えている生徒とかいっぱいいるわけで、中学3年生くらいになるとそういった事でプレッシャーを感じている気がしましたし、小学校ごろから何となくプレッシャーをかけられていく、そこに乗ってどんどん学力を伸ばせていける生徒さんはいいいのですが、そういう生徒さんばかりでないという。保護者として切実に感じていますし、そういった中で農林高校に入学したことで、学力という事でない部分を伸ばしていただいたというのが実感として親としてあるので、そういった事をもっとアピールしていくというか、今、産業界の皆さんが農林高校の魅力を話していただいて、資格とか農業の可能性とかいろいろそういった部分からの魅力ももちろんあると思いますが、親とすれば自分の子どもがどういった能力を开花させて学力では計られない子どもの幸せな人生を、どうゆうふうにつけてもらえるか、そこが一番気になる所かなと思いますので、こうゆう会議で岳北地域高校の魅力づくりという事でせっかく飯山高校、農林高校それぞれの魅力を今、共有されている所だと思います。あまり明確に飯山高校は進学校だとか、農林高校はこうなんだというそのカテゴリーを分ける必要がないと思いますが、飯山高校にはない魅力が農林高校にはあるんだ

とか、そういう見方でとらえていくとすごく岳北地域にはこんないろいろな教育環境があるんだ、という事が地域の魅力になることなのかなと感じました。それと、生徒さんが作った地域活性化のプロジェクトですが、見る限りでは観光客を倍増するという事で、お客様に対しては具体的なターゲットの設定は詳しくなかったのですが、温泉の観光客というどうしてもイメージとしては、シニアの方とか呼び込むイメージがあるんですが、小中学生に高校生がアピールしてほしい。高校生より下の世代を対象にしたツアーとか、そういう事もおもしろいし、農林高校はこんなことやっているんだ、という事を下の世代に知ってもらう機会にもなると思ったので、漠然と観光客を増やすという事も大事だと思いますが、高校生自らが小中学生に自分のやってることをアピールしていく場を地域でつくるのができたらいいなと思いました。ありがとうございます。

日墓部会長

いいのではないですかね。やはり、教わって覚えるよりもむしろ教えることによって覚えることがいっぱいあると思いますので、小中学生と高校生の間の距離が短くなるので、農林高校の生徒さんが自分で教えることによって、更に学びが深まることあるかなと思います。地域を支えて下高井農林高校のOBの皆さんはこれだけ活躍している、現に地域を支えているんだという事をしっかりとみんなに理解してもらうことが大事かなと思います。そんな視点で取り組んでいくべきかなと思います。竹内君どうでしょう。

中高PTA連合会 木島平中学校 竹内PTA会長

中高PTAの竹内です。よろしくお願ひします。中学生の親としては、子ども達が飯山高校と農林高校2つを選ぶという選択肢があることがすごく大事かなと思っていて、地域1校だけしかなかったらそのまま飯山高校行けるのかな、なんて思えると思うのですがこの2つがあることによって、じゃあ、どっちに行こうかなと考えられるのはすごく大事な事ではないかなと思います。僕たちが中学の時はまだ、南高校とか照丘高校とか4つあって、今まで親というか義務教育でそのまま学校行けたのが、いよいよ自分の意思で決めた道で大人になっていく、そういう事になると思いますので今、2校あるというのはすごく大事かなと思います。僕も農林高校の卒業生ですが、OBとしてはすごくいいところですよ。さっき上埜さんも言っていました、学力じゃない部分がすごくある。そこは、行った人がよく分かっているかと思います。農林高校のパンフレットの裏にも卒業生の声を書いてありましたが、ああいう部分が、中学生とかによく見てもらえれば自然と魅力が伝わるんじゃないかなと思いました。プロジェクトとか僕の時もやること決めてやりましたが、それが地域と連携して自分の考えたものだけでなく、より大きな課題を高校生ができるのは本当に素晴らしいと思いました。

日墓部会長

今、高校生のアルバイトはどうなっていますか。

下高井農林高校 久根校長

特に本校については・・・になります。届出するとか、ただ条件はありますが。

日墓部会長

竹内君のところは、アルバイトいっぱいいますよね。そういうところで1週間くらいア

アルバイトしてみればいいのかなどと思って。

中高PTA連合会 木島平中学校 竹内PTA会長

昔、体験で農林高校生が来ました。僕も高校の時は、1週間どこかへ行ったりとか高2の時は1カ月間、北海道へ行って研修しました。

日墓部会長

単に体験でなくて、働くというのが意識も変わってくるのかなと。アルバイトとなると現実的な部分も見えてきて、でも厳しい面が嫌だと言われれば困りますが。そういう交流の仕方もあるのかなと。さっきあった中学生と高校生の交流とか、校長先生とか教育委員会ではどうなんでしょうか、カリキュラムとかに取り込んでいくのは。

中野・下高井中学校長会 木島平中学校 伊賀校長

木島平中学校伊賀と申します。前回、学校の所用でお休みさせていただいて申し訳ありませんでした。今、小中高のつながりが大事だというお話、前回出された提案だと思えます。私からですが昨年、中学校で未来塾という総合的学習の時間で学校から出てという事を大事にしながら活動していますが、3月ぐらいまで今年の講座のひとつとして、そば打ちが候補にあがっていたらしいのですが、本校にそばアレルギーの生徒がいるので急きょ中止になってしまいましたが、それを前任の校長から聞いた話では、下高井農林高校さんという話があったみたいです。実現していればよかったんですが、そういう所も中学校としても大事にしていきたい部分かなと思ってます。そば打ちは無理だったんですが、それ以外の花壇の花の苗は農林高校さんからいただいてありますし、今年コロナがなければ実際に人と人との交流、一緒にという事ができればよかったかなと思ってますし、私は小学校経験が多いのですが須坂に行ったときですが、昔の園芸高校の隣の学校へ行ってたもので園芸科の先生が学校へきてくださり、生徒さんも来てくれて小学生の児童会の委員会の花植えの所を詳しく教えていただいたり、そういう体験をして子ども達もお兄さん達すごいなと思ったそんな場面を覚えています。全部が全部それを今すぐという訳にいかないですが、一つ一つ可能性のあるところについては、せっかく近くに専門的なお兄さん、お姉さん達がいる所があるので、是非そういう機会を中学校としても活かしていきたいなと思ってますし、たまたま去年だめになってしまったんですが、他の・・・の道も探していきたいなと思ってます。もう1点は進路指導で・・・教育的な部分もあるかと思いますが、今年本当ならもう少し早い時期に体験入学があって、農林高校さんの場合は夏休みが違ったんですが、子供たちが高校ってどうゆう所なのかな、と知るところのもっと早い時期から自分たちの進路について、可能ならば交流的なものができるのであれば早いうちから結びついていければいいと思いました。お家の方に進路の話をするのは3年生になってからになりますが、本当はもっと中学1年、2年のあたりから将来高校入試について、単なる学力とか偏差値的な部分だけで考えるのではなくて、という所を大事にしていこう事をお家の人も話していかないと、子ども達だけではなかなか難しい部分もあるかと思えます。

日墓部会長

地元の校長先生として話をしてもらいました。実際、下高井農林高校にくる子どもは広域なので、その他の学校とどうゆう交流をしていくか、個々の交流とも当然やっついていかな

ければならないし、広域の中で中学生が特に、下高井農林高校ともっと深い交流ができれば、そば打ちなんかも高校生が教える最適な科目かと思いますが、それ以外にも、高校生が身につけた技術とか経験があるはずなので、それを小学生、中学生に伝えていくそんな取り組みも言ってみれば地域の貢献ですし、また地域の絆が深まっていくそんなことになると思いますので、是非具体的に進めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。村松さん具体的な話でいつも気になるのが、朝夕になると送迎の車がすごいですね。みんな車で送り迎えしている。特に雪国で公共交通機関が少ない、親の負担も結構あるのではないかなと、例えば後援会で支援できるとか、飯山高校はやっていますがそういうのは何かないですかね。

#### 下高井農林高校同窓会 村松会長

それぞれの立場で何ができるかという題の中で、話が出るんだと思いますが、正直言って同窓会として何ができるかと非常に難しい部分があります。同窓生の中で、のいろいろな職業に対しての専門性の知識を持った人とかそういうのはたくさんいると思いますが、組織としての同窓会として何かできるか、と言うとなるとなかなか難しい部分があるんですね。そういう意味で言うと学校の授業に必要なものの部分で、必要なものについては同窓会として少しでも支援しようかという話がありますが、その中で今、いろいろな方の話を伺ったのですが、1年生の時は地域に出て自分を知るという形ですが、まずその前に地域に出る前に地域を知る、今の中学生は地域を知っているのだろうか、全体的に。例えば、木島平村、栄村、野沢温泉村、飯山市、その所はだいたい知っているんだろうと思いますが、まず岳北地域の地域を知ると。これはあまり深く掘り下げなくてもいいと思うんです。大きな面で全般的な北信地域にはこういうものがありますよと。これは入学してからの話なのか、あるいは中学生の時に何らかの機会に、その中で下高井農林高校はこういう教育をしていくんです、という話をするのか。いろいろと考え方あるかと思いますが地域を知ってもらうことが必要だと思っております。例えば、木島平村にしてもどちらかと言うと「木島平米」というのがメインに出てしまって、あとは割りあいと表に出ていかな部分もある。ところが、こうやって見ますと信越自然郷の中でバスも運行していますよね。夏だったか飯山駅から出て。ああゆうものをもう少しPRして。例えば、木島平村にはカヤの平高原がある、それは自然環境という部分でみんなに知ってもらうと、今度入学してくる人に知ってもらうと。その中で、次に農業だと。という様に関連づけてやっていただければありがたいなと私は思います。栄村さんにしても、野沢温泉村さんにしてもメインになるものがあるんですね。スキー場がメインだとか。ただ木島平村にもスキー場ありますが、ただのっぺらぼうの山のところにスキー場があったってこれはだめなんです。周りに木があってそういうものによって景色がよくてというものがあるものですから、子ども達にアピールしていくというのが必要なのかな。そんな気がしているのです。それから、福祉の関係もですね。今、実際に介護をしているという様な部分とこれは、みなさんご存知かと思いますが、カヤの平は森林セラピー基地となっているんですよ。だから飯山の日赤にもですね、そういうところやってくれているところあります。そういうものを含めて自然環境の中でやれば、老人介護だとか福祉の関係、たまにはそういうところへ連れて行って、いい空気を吸ってという考え方になっていただければとありがたいなと。さっき、観光の事で話が出ましたけれど、飯山市でも関田山系には、信越トレイルという80キロにも及ぶコースがある訳です。高い山に登るのではなくて、尾根筋をずっと歩いて行くという部分ですので、そういういろいろなものを含めてあまり難しくしなくてもいいので、そ

うゆうのを拾い出して中学生なり、親御さんたちに岳北地域全般にこうゆう所あるんですと、その中で下高井農林高校はこうゆう教育をしていくんです、という事をやってもらえれば、いいのではないかと。これは私の個人の考え方なんです、村長さんおっしゃるように同窓会として何か支援できないかと、個人個人にはそれにたけた方がたくさんおられますので、是非活用していただきたいと思いますが、同窓会組織としてはなかなか厳しいものがあると、逆にこちらから自治体の皆様には是非、同窓会として軽トラックを1台お借りしているんです。どうも同窓会で持っているのはちょっと厳しくなってきたという状況で、なんとか面倒を見ていただけないかという様なことも出ていますので、これまた別の時に村長さんをお願いしなければならぬのですが、下高井農林、地域にある高校にみんなに目を向けていただけるという取り組みも必要なのかなと思います。

#### 日墓部会長

それぞれ下高井農林の魅力を高めるために、地域のためにそれぞれ皆さんが何らかの形で関わっていただけるとそうゆう気持ちを表してもらったと思います。いつきに全ては難しいかも知れませんが、高校の校長先生とか相談しながら具体的には来年度以降、個々にはいろいろやってもらっているんです、それを体系的にして、ひとつのプロジェクトとして魅力を高めるための取り組みに繋げていくと、そのために是非皆さんそれぞれの立場で、PTA会長とか職責だけではなくて自分の持っている仕事であるとか、経験であるとかそうゆうものを通して、下高井農林に何かひとつでもふたつでも実際にやっていただくと。そして、その点について逆に言えば農林高校の方から「こうゆう事をしてほしい」「こうゆう事を知りたい」とか是非マッチングして行って、具体的な取り組みに来年度進めていきたいと思います。今日も栄村村長さんもいらっしゃいますが、また行政としても何かできるか考えていかねばならないと思いますので、宮川村長さん、今までの話を聞いて何か発想あったらお願いします。

#### 宮川副部会長

いろいろなお話を聞かせていただいた中で、少し観点は違うかも知れませんが、魅力という話の中で先ほどもちょっと行って見てきたんですが、かなり学校が歴史を経て古くなってきているんですね。それで飯山高校はあまりにもよくなったので、なかなか下高井農林のキャンパスを見ても、中学生の子ども達が魅力を感じてこの高校へきて頑張ってるやろうかという事になるのかどうか。これ、見たくれだけでなくて「質実剛健」て言うのですかね、それでいいと思うんですが、そうは言ってもやはり見たくれというものもあるので、県としてもそういった所に、もっと金かけられるところはかけてもらってもいいのではないかという思いを非常にしています。きれいになって、松があつてすごくいい雰囲気ですが、近づくともっとサッシひとつだって今時じゃない。これはやっぱり、県の皆様そこら辺をもっとなんとかしてくれないかな、という事を我々がもっと言ってもいいのかなと非常に思っております。それから、もうひとつ募集ですね。これも我々の時もいろいろな所から来ていた。菅平から来ていたとか、草津から来ていたとか、津南町から来てたとか我々の友達がいたわけです。でも今そうでない。なんでかという、下宿屋さんがなくなって広く一生懸命もっと集めると、なんでもっと募集を一生懸命やらないんだとすごく思いますが、例えば栄村から農林高校へ来ても秋山郷から通えないです。下宿を探すけど無い。そうすると結局、長野高専だとか。あれは寮がありますよね。そうゆう所へ行ったりとかなる訳です。これから、下高井農林、子ども達を集めると言っても子ども達少ない訳ですか

ら、広く集めるという事になると足もそうですが、泊まれるところを見つけないと難しいというふうにも思っております。いろんな課題がいっぱいあるんだけど、日墓村長さんも言われましたが、行政として何がこれからできるのかという事を本当にこれから皆さんと考えながら我々でできることを、そして県としてもなんとかやってもらいたいのは、やってくださいよと。我々も、願いをする事は明確にしてやっていくのが大事だと思います。人数で160とか120とか、これを是非、打破してもらいたいと私は思っています。いいじゃないですか、30人のクラスが3つで90人だって、とゆうふうには是非、長野県教育、信州教育、教育県長野です。隣の新潟県は、長野県の教育に何とか追いつきたい、もう追い越しているんですが、新潟県は教育新潟と言ってくれない。長野県うらやましてしょうがないといつも私、言われています。是非、県の皆さんにもいろんな所で下高井農林の事について一生懸命考えていただきたい。県の教育長さん直々にいろいろな事を私はもっとお話ししたいと思っておりますので、上原さん、是非またよろしく申し上げます。

#### 日墓部会長

その点は是非、県教委というか、県の方にもお願いしたいと思います。今、専門高校としてそれに相応しい、今、時代はどんどん進んでいるのでそれに相応しい最先端の農機具だったり、それからまたドローンだったり、AIであるとかそういうのをどんどん取り入れていかないと、古い機械で覚えても・・・いかないと。いう事もありますので、是非また県の方でお願いしたいと思います。それともう一点、下宿という話で、実際に去年か一昨年、栄村から生徒が1名来て下宿先というふうに村に頼まれたのですが、何軒回っても結局、下宿を受け入れてもらえなかったという事で、たしか飯山市のアパートへ入ったと思いますが、昔は下宿は結構あって言ってみれば、冬期間の冬の親代わりですよ。食事も弁当も作る掃除もしてくれるという様な、今なかなかそこまでやってくれる人がいないというのが現実なんですね。そんなこともあって、前も少しお話しした里山の家に村が作った部屋があるので、それを何とか使えないかという事をこの機会にまた改めて検討していきたいと思っておりますのでお願いします。それと今、実際、下高井農林の空き教室はどのくらいあるのですか。

#### 下高井農林高校 久根校長

空いている部屋というのは無いです。ホームルーム以外にも、少人数の講座の授業があるので、こそで活用することがあるので今、空いててまるっきり使ってないという部屋は無いです。

#### 日墓部会長

教室だけでなく例えば昔の林業棟とか、そこは今どうなっていますか。

#### 下高井農林高校 久根校長

林業棟も使っています。

#### 日墓部会長

そうですね。空いている所があったら、そこに民間の企業が入ったらどうかなと思います。そこで、農林とか林業とか関わる仕事をしていく。企業と高校がタイアップして新しい事業を興していくとか、そんな事も考えてもいいんじゃないかなと思います。可能

かどうか別にしてね。そのくらいのことをやったっていいのかなと思いますので、当然そうなれば県教委とか施設の管理者がどう判断するかというのがありますが、そんな事も部会の中でいろいろ議論していければと思いますのでお願いいたします。  
あと、それぞれ教育長さん一言ずつお願いいたします。

木島平村教育委員会 小林教育長

それでは、私の方から木島平村の教育長をしております小林と申します。4点ほどありますが、先ほど農林高校生との地域の交流でありますが一昨日、農林高校生がそばの講師として中野市の片塩の公民館へ行ってやったという事、私はこれ金曜日か木曜日かと思っていましたが土曜日、日曜日ですね、休日だったんですが。近隣の所だけでなく他の市町村に行き行ってやる事が非常に下高井農林のそば打ちというのが、非常に全国的に地域に広がってきているこの辺のところ、外に出ていくひとつの地域との交流のいい例かなと思いました。それから、受け入れ生徒に門戸という事で、今日の資料にもありましたが、多様な生徒の受け入れという事で、大学進学等々目的を絞ったという事でなくて、非常にこの地域でもいろんな生徒がいると思います。そういう生徒も受け入れてそして、農林高校の家畜だとか生き物をやって3年間でこれだけ伸びているという、やはり若いですから伸びしろがあると思います。そんなところを今までの卒業生の中でも、顕著なものもありますので、そんな所のPR又は募集人員の高校のその中にも紹介していく事が大事かなと思います。それから、先ほど宮川村長さんの方と関わる訳であります、農林高校の魅力を長野県だけでなく、近隣の新潟県とか妙高とか津南とか大胆に、単なる信毎の募集人員の中にこういうものを発表するだけでなく、農林高校とはこういう様なところだという大胆な発想で、他県の近隣の北信地域と接している所にPRして、どうかという所でアピールを是非という所も出てくる事があるかなと思います。あと、資料の中にもありましたが昨年度農林高校生1名海外へ農業研修に行った訳であります、生徒が学んでいる事を外国に行き行って一緒に研修する。そして、自分で学校で学んだ知識とか技能とかそれを山間地の外国の人と一緒にやってみるといふ、そんなところが非常に帰ってきてからも意識的にもグローバルな見方ができていくかなと思ふ訳で、そういう面では、行政からも財政面の支援とか今後できていくといっぱい行くという訳にはいきませんが2名、3名という枠の中で、少し財政面でありますので是非それに向けて自分自身の今やっている勉強、そしてまた向こうへ行って意思疎通ができる英語とか張りを持ってやっていける、そんな魅力を農林高校として発信できればいいなと感じております。

栄村教育委員会 石澤教育長

栄村の教育長の石澤です、よろしく申し上げます。農林高校さん一生懸命で魅力ある学校づくりやっておられまして、今年の1月、課題発表研究会がなちゅらで行われて、そちらの方へ出席をさせていただいて、本当に素晴らしい発表だったと思っております。ただ、残念なのが、あの会場には中学生が一人もいなかったと。あれだけ素晴らしい発表はやはり中学生に聞いてほしいな、ただ時期的にもう中学3年生は進路ほぼ決まっていますので、1年生とか2年生がああゆう発表会にも出られないものかという事で、うちの方も栄中学校生徒数が少ないもので今年、もしくは来年あたり発表会にはなんとか1年生を出席させたいなと思っております。また、今年ですが栄小学校1年生と農林高校の3年生がズームで交流をさせていただいて、さつま芋の栽培から始まって、来月は栄小学校の児童がそちらの方をおじゃまして、実際、生徒さんたちと交流をします。こういう事でいろいろお話が

出ているように、小中学生の段階からやはり農林高校さんとの関連、交流が必要と思っていますので、そちらの方も力を入れていきたいと思っております。以上です。

日墓部会長

ありがとうございました。その他、皆さんの方でご意見、これはというものがありましたら。石澤さん、はい。

信州いいやま観光局 石田常務理事

質問よろしいですか。すみません、校長先生いらっしゃるのでお伺いできればと思ったのですが、SPHスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールという事で、自立型地域リーダーを求めていくという事で、新潟県の加茂農林高校が積極的に進めている課題研究の授業ですが、こういった方向性について下高井農林高校はいかがなんでしょうか。先ほど、「グローバル」というキーワードがございましたので、そうしたもので、何かお考えがあればお聞かせいただければと思います。

下高井農林高校 久根校長

文部科学省の授業を県下でもそれを行っている学校いくつかございます。本校としてやるかどうかですが、何を打ち出していくかが一番だと思います。県内では、農業高校で上伊那農業高校さんが昔、専門高校ですので諏訪実業さん、飯田OIEDさんといったところが組んであります。何でもかんでもという訳にはいかないと思いますが、その手法を逆にモデルとして学ぶという事は、十分考えられるかなと思っております。

日墓部会長

いろいろご意見伺いましたが、できれば次回については今回、前回お聞きしたご意見がある程度まとめて、具体的なプランみたいな形で校長先生と相談しながらたたき台の様なかたちで提案できればと思っております。来年からと言っても、村としても予算が関わってったりしてきますので、・・・当然県にお願いするとしても・・・出てきますので、高校としても早くカリキュラムを決めなければならないといった事もありますので、具体的なものをできるだけ早く進めなければいけないかなと思いますので、お聞きしたのを全部提案するというのは難しいかも知れませんが、来年度の具体的な取り組みにつながるようなものを提案してそれについて、いろいろ意見交換それぞれ何ができるのか、やり方についても検討していきたいと思っておりますが是非よろしく申し上げます。今回、前回とオブザーバーで来ていただいた県教委の方からもこれからどうゆう形で関わって、どうゆう形で応援していただけるのか含めて、ご意見いただければと思いますのでよろしく申し上げます。

長野県教育委員会 高校教育課高校再編推進室 上原主任指導主事

今、お話しをいただきまして、今回の会議におきまして様々なお立場からこの様な提案と言いますか、この様な工夫がとか、こんな魅力があるんだと。そうゆう所を掘り起こしていったらどうだという様な提案をいただいております。そんなところを今、現状の高校生の活躍している姿をご理解いただいているというふうに私は受け止めました。ご理解をいただいているそれをいかに発信していくか、中学生の希望に応えられるような情報発信ができるかというのが、今のところの大きな課題かなというふうにつかんでおります。実際のところ、様々な面で施設設備の関係のところとかご発言いただきましたが、非常に

近くに飯山高校がありという形で、施設設備の面で差が出ているところは明らかかなところがあるんですが、これは全県下の公立の高校がほぼ同じような状況でして、飯山高校と例えば、長野地区で言うと長野高校が特別、1歩も2歩も3歩も進んでいるような施設設備を持っております。ですが、他の学校を対比してみると非常に古い耐用年数を経過した施設の中で、教育がなされているという状況がありまして、そんな中での話にもなってくるのかなとも思います。今後、またこれからのお話の中でやはり何ができるのかをお考えをいただいて、それをどのように発展させていったらいいのかと。今、2校ある中で、飯山高校と農林高校どちらかを選択する場合に、教育課程の面でも学習の面でも、その2校の魅力というか、発信の方法も含めてなんですが、明らかに違いがあって中学生がしっかりと「やっぱりこっちへ行こう」というふうに決めて行くことができるというんでしょうかね、決断ができるというか。「あなたはそっちへ行きなさい」「こっちのほうがいいよ」というふうに言われるのではなくて、自分で選べる学校に何とか、知恵といろいろな新たな発想を出し合っていくことができたらなと感じております。なかなか、財政の面も厳しくて出せるものは知恵しかないのかなと思いつつ、何かいい発想があればと考えておりますのでまたよろしくお願ひいたします。

#### 日墓部会長

いろいろな面でまた、前向きに検討していただければと思います。今まであまり出てこなかったのですが、これからはやっぱりAIとか、そういうものもこういった時代になってくるので、高校生にもそういう場面とか学べる機会も必要なのかなと思います。あれもこれもなかなかできないのかも知れませんが、できることを確実に進めていくという立場で、これからもぜひお願ひしたいと思います。皆さんの方で特にご意見あれば。

#### 下高井農林高校 上埜PTA会長

些細な事ですが、この間飯山の方とお話していた時に、その方は特に高校との接点は全くない方だったんだと思うんですが、「農林高校ってまだあるのかい」と言われちゃったのです。親としてもショックだったんですが、本当に現役農林高校生がそんなこと言っている人のことを聞いてしまったらすごいショックだと思いますので、私たち木島平村にいるので農林高校あるのは当たり前みたいに思っていますが、意外とよその地区に行くと知らない方とか、活動を知らない方とかまだまだおられると思いますので、ふう太ネットでいろいろ農林高校のニュースもやっていただいています。なかなか他の市町村だと見られなかったりだとか、そういう事もありますので、村報と一緒に配られている「農林高校だより」ありますよね、全戸配布でなくて、回覧になっている「農林高校だより」とかああいったものを他の市町村の方も簡単に見られるような。飯山市の広報に挟み込んでもらえばいいのではないかと、そんな話もあつたりしたので、全戸に配っていただけるかどうかまた別ですが、そういう方法もあると思いますし地道に農林高校の情報、紙になっている情報なり、ふう太ネットのニュースみたいなものの映像であつたりとか、他の地区の人も簡単に見られるような具体的な方策を考えたら、そういうこと事態は割とすぐできることではないのかなと思います。魅力づくりも大事ですけど、伝わってない部分もまだあると思いますので対策を考えたらなと思ひました。

#### 日墓部会長

村の広報では毎月、農林高校の活動を載せているのですが、飯山市とか近隣の市町村と

かこの付近でも何回か取り上げてもらうとかそんな事もお願いしていきたいと思いますが、今、「農林高校だより」はどの範囲、どうゆうふうにですか。

下高井農林高校 久根校長

岳北地域すべての市村には配布をしております。あと、中学校はすべて。中学生の学級数。木島平村さんについては、回覧板等で回るような形でもやっていますので。中学生にはある程度届いていると思うんですが、地域の他の市村方に隔々までというのはどうゆうやり方がいいのかというのは確かにあると思いますので、市役所に提示というレベルだけでなく、少し浸透するような何かいいやり方があれば教えていただけたらと思います。

日臺部会長

ふう太ネットだけでなく、いろいろな広報の手段ありますので、できるだけネタを持ち込んで取り上げてもらえるようにしていきたいと思います。去年、高校の協議会で議論した際に、私の印象だと地域キャンパスだけが大きく取り上げられているような印象で、前回も申し上げましたが今この部会、協議会は地域キャンパスを目指しているわけではないんです。地域キャンパスというのは、最後の手段。今の下高井農林高校をいかに今のまま存続させるか、そしてそれがどうしても困難になった場合には、やむを得ず地域キャンパスだという事なんですが、捉え方として地域キャンパスを目指して捉えられている場面もあるかも知れないので、その辺を是非誤解のないように。今の下高井農林高校を存続させる、そのための部会であると。そのために皆さんに集まってもらってご意見を伺っているということを是非ご理解いただきたいと。地域の皆さんにもご理解いただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。その他。なければ事務局に進行を戻します。

(事務局から次回全体会、第3回農林高校のスケジュールについて説明した。)